

中国語における人称代名詞複数形体系の成立について

孟 子 敏

松 山 大 学
言語文化研究 第29巻第1号 (抜刷)
2009年9月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 29 No. 1 September 2009

中国語における人称代名詞複数形体系の成立について

孟子敏

1 はじめに

1.1 人称代名詞複数形について

近世中国語における人称代名詞の複数形は主に2つの形式で構成される。その1つは、人称代名詞に「們」・「毎」を付けて作られ、もう1つは「咱」である（俺の一部は複数を表す）。「們」・「毎」を付けて構成される複数形は、主に「我們」・「我毎」、「俺們」・「俺毎」、「咱們」・「咱毎」、「你們」・「你毎」、「他們」・「他毎」のようなものがある。

本稿では、『金瓶梅詞話』を中心として、さらに元代の『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『老乞大』、明代の『翻譯老乞大』、明末清初の『醒世姻縁伝』、清代の『聊齋俚曲』、『老乞大新釈』、『重刊老乞大』および『紅樓夢』、『兒女英雄伝』などを用い、中国語における人称代名詞複数形の成立過程について通時的考察を加える。

1.2 『金瓶梅詞話』について

『金瓶梅詞話』は、蘭陵笑笑生の著であり、全10巻で、全100回から構成されており、全字数は80万余である。『金瓶梅詞話』は、白話小説の伝統的言語形式を打ち破り、一般庶民の日常における言語生活の実態に徹底的に則して書かれている。この小説は16世紀末に成立し、中国文学史上、重要な転換点をなす写実小説として非常に有名である。また、写実主義の小説として非常に優れているばかりでなく、当時の口語形式の口頭語の実態にきわめて近いものを伝える「方言調査報告書」とも言えるものである。

この小説は山東方言を基礎として書かれており、16世紀末から17世紀初期に

かけての山東南部方言を記録している。その記録によって我々に向かって発信されるものは音声、語彙、文法の各情報に亘っている。

2 第一人称複数形および変遷

第一人称に複数形は「我們」・「我每」、「俺們」・「俺每」、「咱們」・「咱每」・「咱」などを指す。ここで、これらの複数形にどのような意味差があるかを考察し、さらに、「我們」と「俺們」、「咱們」の変遷を考察してみる。

2.1 「我們」・「我每」、「咱們」・「咱每」、「俺們」・「俺每」

まず、「我們」と「我每」は、唐代で「我弭」という表記で表す。宋代で、「我漚」、「我門」のような表記も出てきた。例を見てみよう((1)は呂叔湘の例であり、(2)・(3)は太田辰夫の例である)。

- (1) 盧尚書宏宣與弟衢州簡辭同在京。一日，衢州早出。尚書問有何除改。答曰：“無大除改，唯皮遐叔蜀中刺史。”尚書不知皮是遐叔姓，謂是宗人，低頭久之，曰：“我_我當家沒處得盧皮遐來。”衢州為辨之，皆大笑。（『因話錄』4.10）
- (2) 我_漚也要戰，但無人主此事。（采石戰勝錄，三朝北盟會編242）
- (3) 如今廝殺後，若是我_門敗，得物也做主不得。（紹興甲寅通和錄，三朝北盟會編163引）

2.2 『金瓶梅詞話』における第一人称代名詞複数形

『金瓶梅詞話』で、「我們」と「我每」の2つの形が用いられる。「我們」の用例は35回で、「我每」は16回である。例を見てみよう。

- (4) 這花子虛得不的這一聲，走來對衆人說：“如此這般，我們往院裡去！”
(013/06b/01～02)
- (5) 伯爵道：“你拿耳朵，我對你說，大官人新近請了花二哥表子後巷兒吳銀兒了，不要你家桂姐了。今日不是我們纏了他來，他還往你家來哩！”

(015/07b/07 ~ 10)

- (6) 西門慶道：“若是我們贏了，要你吃，你怎的就冒吃？”(054/07a/11 ~ 07b/01)
- (7) 張勝窗外听了個不亦樂乎。口中不言心内暗道：“此時教他算計我們，我先算計了他罷。”(099/08a/02 ~ 03)
- (8) 二人都慌了手腳，說道：“如此怎了？乾娘遮藏我每則個。恩有重報，不敢有忘！”(008/10a/03 ~ 04)
- (9) 既他央了俺兩個一場，顯的我每請哥不的，哥去到那裡，略坐坐兒就來也罷！(021/11b/10 ~ 11)
- (10) 婆子道：“我每說個傻話兒，你家官兒不在，前後去的恁空落落的，你晚夕一個人兒不害怕麼？”(037/07a/04 ~ 05)
- (11) 吳月娘道：“忙怎的，那裡纔來乍到就與他吃，罷！叫他前邊站着，我每就起身。”(046/07a/06 ~ 07)

さらに、「咱們」の用例は5回で、「咱每」は63回で、「咱」は310回が見られる。例を見てみよう。

- (12) 月娘道：“見是下雪，叫個小廝家裡取皮袄来咱們穿。”(046/08a/11 ~ 08b/01)
- (13) 那薛姑子坐就，把那個小合兒揭開，說道：“咱們沒有甚麼孝順，拏得是主人家幾個供佛的菓子兒，權當獻新/”(057/11a/02 ~ 03)
- (14) 月娘道：“姑奶奶，你再住一日兒家去不是！薛姑子使他徒弟取了卷來，咱晚夕教他宣卷咱們聽。”(074/10a/060 ~ 08)
- (15) 玉樓向金蓮道：“這庄事咱對他爹說好不對他爹說好？大姐姐又不管，倘忽那廝真個安心，咱每不言語，他爹又不知道，一時遭了他手怎的？”(025/09b/03 ~ 06)
- (16) 後邊請三位師父來，咱每且聽他宣一回卷着。(074/11a/07 ~ 08)
- (17) 西門慶道：“你沒吃甚麼兒，叫丫頭拿飯來咱每吃。我也還沒吃飯哩！”(075/18b/01 ~ 02)

- (18) 應伯爵道：“真箇嫂子有此話！休哄我。你再去問聲嫂子來，**咱**好起身。”
(013/06b/02 ~ 03)
- (19) 你快梳了頭，自過去和李瓶兒說去。**咱**兩個人每人出五錢銀子，教李瓶兒拿出一兩來。(021/05a/03 ~ 04)
- (20) 月娘道：“你看，沒分曉。一個人的形也脫了，關口都鎖住，勺水也不進來，還妄想指望好？**咱**一壁打鼓一壁磨旗，幸的他若好了，把棺材就捨與人，也不值甚麼。”(062/09a/10 ~ 09b/01)
- (21) 這吳大舅連忙進去，對月娘說：“姐姐，你怎麼這等的？快休要舒口！自古人惡禮不惡，他男子漢領着**咱**惹多的本錢，你如何這等待人？好名兒難得，快休如此！”(080/03b/08 ~ 10)

次に、「俺們」は53回で、「俺每」は355回である。例を見てみよう。

- (22) 當初在家把親漢子用毒藥擺死了，跟了來。如今把**俺們**也吃他活埋了。弄的漢子烏眼雞一般，見了**俺們**便不待見。(011/05b/08 ~ 10)
- (23) 韓玉釧道：“**俺們**到家也有三更多了。”(043/08a/04 ~ 05)
- (24) 伯爵攔住道：“東家，你也說聲兒！**俺們**倒是朋友，不敢散。一個親家都要去，沈姨夫又不隔門，韓姨夫與任大人、花大舅都在門裡，這咱纔三更天氣，門也還未開，慌的甚麼？都來大坐回兒，左右關目還未了哩！”
(063/11b/09 ~ 12a/01)
- (25) 因說道：“你每且外邊候候兒，待**俺每**吃過酒踢三跑。”(015/09a/05 ~ 06)
- (26) 成日把魂恰似落在他身上一個，見了說也有笑也有。**俺每**是沒時運的，行動就相烏眼雞一般，賊不逢好死變心的強盜！(035/09a/09 ~ 11)
- (27) 金蓮道：“娘是個天，**俺每**是個地。娘容了**俺每**，**俺每**骨禿忝着心裡。”
(076/05a/04 ~ 05)

2.2 第一人称複数形の意味差

第一人称代名詞複数形の意味差を分析するならば、よく用いられる概念は「除外形」と「包括形」である。「除外形」と「包括形」の異なるところは2つがある。1つは、「除外形」が聞き手を含まず、発話者の側を指し、「包括形」とは聞き手と発話者とも含まれるというわけである。もう1つは、「除外形」では第三者が含まれ、「包括形」が第三者を除外するというわけである。

まず、「俺們」と「咱們」・「咱」について分析してみる。

『金瓶梅詞話』のうち、「俺們」(「俺每」を含む)は「除外形」で、「咱們」(「咱每」・「咱」を含む)は「包括形」を表し、この二者の区別を整然と示す。たとえば、以下の例(28)では、陳經濟が使っている「俺們」は聞き手としての「銀姐」を除外し、陳經濟自身や月娘などの第三者を指している。例(29)では、應伯爵が使っている「俺每」は聞き手としての西門慶を除外し、自分と第三者の謝希大を指している。例(30)は孫雪娥の発話で、「咱們」の意味は第三者としての「他」(潘金蓮)を除外し、自分と呉月娘などを指す。例(31)では、「咱每」は薛内相自分自身と劉家を指す。「咱」の意味は「咱們」と同じである。例を見てみよう。

- (28) 陳經濟路上放了許多花炮，因叫：“銀姐，你家不遠了，**俺們**送你到家！”(046/13a/10～11)
- (29) 西門慶道：“我知道。”于是與應謝二人相見聲諾，說道：“哥昨日着惱家來了。**俺每**甚是恠他家。從前已往哥在你家使錢費物，雖故一時不來，休要改了腔兒纔好。”(021/11a/03～06)
- (30) 雪娥扶著月娘，待的衆人散去，悄悄在房中對月娘說：“娘也不消生氣。氣的你有些好歹，越發不好了……留着他在屋裏做甚麼，到明日沒的把**咱們**也扯下水去了。(086/07a/09～07)
- (31) (薛内相)因向劉太監道：“劉家！**咱每**明日都補禮來慶賀。”(031/15a/09)
- (32) 玉樓道：“我這裡聽大師父說笑話兒哩，等聽這個。說了笑話兒，**咱**去。”

(021/13b/02 ~ 03)

- (33) 潘金蓮隨即叫孟玉樓：“咱送送他兩位師父去，就前邊看看大姐，也在屋裡做鞋哩。”(058/16a/05 ~ 06)

ここで、特に聞き手について説明する必要がある。聞き手とは、通常発話者と対面している人で、これは直接の聞き手と呼ぶ。もう1つは発話者が直接聞き手に対して話しているとき、ほかの人を聞き手として想定して話している。このように見えない聞き手は隠れ聞き手と呼ぶ。たとえば、前文にある例(29)では、発話者は應伯爵で、聞き手は西門慶である。しかし、應伯爵が最初に「俺每甚是恠他家」と言い、続いて「從前已往哥在你家使錢費物」と言った。その中にある「他家」、「你家」はすべて「李桂姐家」と指す。「他家」とは直接聞き手の西門慶に対して言ったもので、「你家」とは隠れ聞き手としての「李桂姐」に対して言ったものである。

このように聞き手を定義するならば、ある「俺們」が包括形を表すと言われる用例に対して、視点を変えて分析すると、やはり「俺們」が除外形を表すことが分かる。例を見てみよう。

- (34) 金蓮忙推玉樓，指與他瞧，說道：“三姐姐，你看！這個是隔壁花家那大丫頭，不知上牆瞧花兒，看見俺們在這裡他就下去了。”(013/09a/11 ~ 09b/02)

- (35) 玉樓道：“他不是假撇清。他有心也要和，只是不好說出來的。他說他是風老婆不下氣，倒教俺每做分上，怕俺每久後玷言玷語說他。敢說你兩口子話，差也虧俺每說和。”(021/04b/09 ~ 11)

例(34)では、直接の聞き手は孟玉樓であるが、隠れ聞き手は「那大丫頭」である。「俺們」が用いられ、隠れ聞き手を除外して話している。例(35)では、直接の聞き手は潘金蓮で、隠れ聞き手は呉月娘である。この場合にある「俺們」とは呉月娘に対して使われるもので、当然「呉月娘」を除外している。

「咱們」がそれ以外に活用されている用例も見られる。たとえば、実際に発話者あるいは聞き手が含まれない場合、「咱們」も用いられる。このような用

例は発話者がレトリックとして使っているものである。例を見てみよう。

- (36) 員外道：“…只是咱前日酒席之中，已把小的子許下他了。”（055/10b/10～11a/07）
- (37) 春梅道：“咱这里買一個十三四歲丫頭子與他房裡使喚。”（097/10b/0～02）
- (38) 薛嫂道：“…聞得咱家門外大娘子要嫁，特來見姑奶奶講說親事。”（007/03b/05～08）
- (39) 薛嫂兒道：“…若在咱家里，他小叔兒怎得殺了他，還是仇有頭、債有主。倒還虧了咱家小大姐春梅，越不過娘兒們情腸，差人買了口棺材，領了他屍首埋葬了。”（088/11a/02～06）

例(36)、(37)では、「咱」は聞き手を含まず、例(38)、(39)では、「咱」は発話者を含まない。このようなレトリックを通して、聞き手との関係が親しくなることを表現できる。

次に、「我們」について分析してみる。

「我們」(「我每」を含む)は、「咱們」が「包括形」を表し、「俺們」が「除外形」を表すというように明確な特徴を持っていない。『金瓶梅詞話』では、「我們」は「包括形」も表せるだけでなく、「除外形」をも表すことができる。例を見てみよう。

- (40) 那應伯爵坐了，只等謝希大到。那得見來，便道：“我們先坐了罷，等不得這樣喬做作的。”（053/18a/02～03）
- (41) 西門慶就向白來創耳邊說道：“我們與那花子賭了，只說過了日中，董嬌兒不來，各罰主人三大碗。”（054/07a/02～04）
- (42) 衆人道：“是便是了，你且去叫他進來，我們纔好吃。”（054/07b/01～02）
- (43) 書童道：“定求收了，纔好領藥。不然我們藥也不好拿去。”（054/14a/01～02）
- (44) 玉樓道：“罵我每也罷，如何連大姐也罵起淫婦來了？沒槽道的行貨

子!” (018/06a/03～04)

例(40)、(41)では、「我們」は発話者と聞き手の両方とも含み、例(42)、(43)、(44)では、聞き手が含まれない。したがって、「我們」は「包括形」を表すとも「除外形」を表すとも言えない。文脈次第で、「包括形」と「除外形」のいずれを表すのかが判断しうるのである。南方系官話においては、「我們」しか使われなく、「我們」はこの特徴を持っている(呂叔湘 江藍生 1985)。『金瓶梅詞話』における「我們」は南方系官話から伝わってきたという可能性が高い。以下に述べてみる。

第一、「我們」は各回における分布は普遍的ではなく、「我們」が用いられる回数は相当少ない。分布状況は以下の表1の通りである。

表1 「我們」の分布表

回数	我們(我每)	回数	我們(我每)	回数	我們(我每)	回数	我們(我每)
001	6	026	1	051		076	
002		027		052		077	
003	1	028		053	3	078	
004		029		054	13	079	
005	2	030		055	3	080	
006		031	1	056		081	
007		032		057	2	082	
008	1	033		058	1	083	
009		034		059		084	
010		035		060		085	
011		036	1	061		086	
012		037	2	062		087	
013	2	038		063		088	
014		039		064		089	
015	1	040		065		090	
016		041		066		091	
017		042		067		092	
018	1	043		068		093	

019	1	044		069		094	
020	1	045		070		095	
021	3	046	1	071		096	
022		047	1	072		097	
023	1	048		073		098	
024		049		074		099	1
025		050		075		100	1

分かりやすいように、表1に基づいて、以下の図1を作成する。

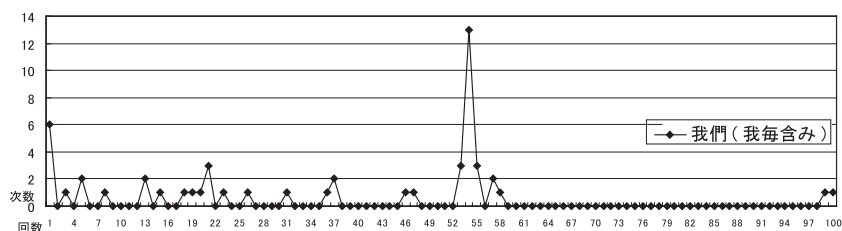


図1各回における「我們」の分布図

表1と図1から見ると、『金瓶梅詞話』全篇において100回中で、「我們」は24回しか見られず、76回中では、「我們」が用いられない。これは不思議な現象であると言えるであろう。その24回の中で、第6、53、54、55回では、25回の「我們」が集中し、「我們」の総数の約50%を占める。特に、54回では、にわかに13回の「我們」が出現することが注目される。従来、第53～57回は南方「陋儒」の偽作だと指摘したが、「偽作」であるかないかははっきり言えないとはいえ、この視点からすると、南方系に属する人が混入させた部分があるはずであると考えうる。しかし、どのような方式で混入させたのかは、やはり検討する必要がある。

第二、「我們」と「咱們」、「俺們」とを比べると、「我們」のほうがかなり少ない。合計すると、「咱們」は378回で、「俺們」は388回だが、「我們」は51回しか用いられなく、「咱們」、「俺們」とはバランスを欠いている。以下の図2

を見てみよう。

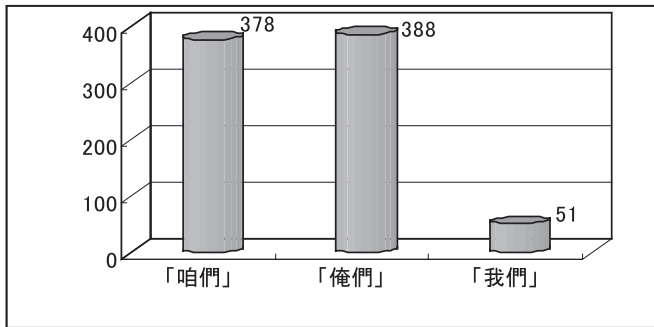


図2「我們」と「咱們」、「俺們」の比べ図

この図から見ると、『金瓶梅詞話』では、「包括形」を表す「咱們」と「除外形」を表す「俺們」という対立する第一人称複数形が明確であるが、両者の言語的地位は平等である。「我們」は「咱們」、「俺們」のような地位を獲得できず、南方から伝わってきたため、「我們」は定着しにくい。いまだに、蘭陵方言では、この「我們」はまだ定着していない。

「我們」と「咱們」、「俺們」との変遷状況に対して、歴史的に考察しなければならない。

2.3「我們」と「咱們」、「俺們」との変遷

南方系官話では、「咱們」がなく、すべて「我們」を使ってしまう(呂叔湘 江藍生 1985)。たとえば、馮夢龍(1574～1646)が編纂した『警世通言』、『醒世恒言』の中で、合計で106回の「我們」の用例が見られる。「咱們」の用例は2回しか見られない。もちろん、この2回はやはり検討する必要がある。例を見てみよう。

(45) 洞賓與魏生飲酒，說道：“**我們**的私事，昨日何仙姑赴會回來，知道了，大發惱怒。”(『警世通言』)

(46) **我們**只得與他完就這親事則個。(『警世通言』)

(47) 久媽道：“妹子，你是明理的人，**我們**這行戶中，只有賤買，那有賤賣？”（『醒世恒言』）

北方系方言(中原官話・北方官話を含み)において、『金瓶梅詞話』の前後に成立した作品では、「我們」と「咱們」、「俺們」の使用状況はどのような様子であるか。ここで、考察してみる。『金瓶梅詞話』以外に、用いる資料は元および代の『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『老乞大』*、明代の『翻譯老乞大』、明末清初の『醒世姻縁伝』、清代の『聊齋俚曲』、『老乞大新釈』(1761)、『重刊老乞大』(1795)および『紅樓夢』、『兒女英雄伝』の十種である。これらの資料の中で、『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『紅樓夢』、『兒女英雄伝』は北方官話に属し、『金瓶梅詞話』は中原官話に属すると見られる。なお、ここで、本論文では『醒世姻縁伝』、『聊齋俚曲』は中原官話に属するものとする。「我們」には「我每」が含まれ、「咱們」には「咱」が含まれ、「咱們」、「俺們」の出てこない作品では、一応「咱」、「俺」の用例回数を挙げ、備考欄で「咱」、「俺」と示す。結果は以下の表2のように表示する。

表2 各作品における「我們」と「咱們」、「俺們」の分布表

作品名	所属	「我們」	「咱們」	「俺們」	備考
『元刊雜劇三十種』	北方官話	0	191	408	「咱」は主流である。「俺」
『關漢卿戲曲集』	北方官話	2	27	283	「咱」、「俺」
『老乞大』	北方官話	0	92	183	「俺」は主流で、「俺每」1例
『翻譯老乞大』	北方官話	4	90		
『金瓶梅詞話』	中原官話	51	378	388	
『醒世姻縁伝』	中原官話	339	371	51	
『聊齋俚曲』	中原官話		292	307	「俺」
『老乞大新釈』	北方官話	48	81		
『重刊老乞大』	北方官話	46	79		
『紅樓夢』	北方官話	1226	610	2	
『兒女英雄伝』	北方官話	449	312	2	

* 『老乞大』に関する資料は竹越孝が入力した『『老乞大』対照テキスト』を参考した。

さらに、この統計に基づき、図2を作成する。図の中で、表における作品はそれぞれ「元・關・老・翻・金・醒・聊・新・重・紅・児」と略称する。

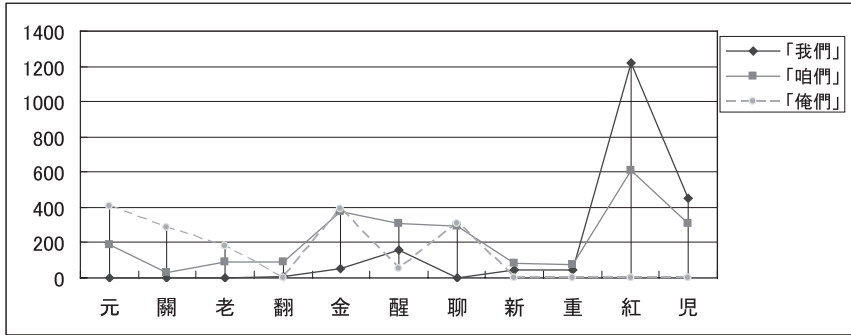


図2「我們」と「咱們」、「俺們」の分布図

以上の表2と図2に基づき、以下の考察を行なう。

第一、元代では、『元刊雜劇三十種』、『老乞大』では、「我們」は用いられなく、『關漢卿戲曲集』では「我們」が2例しか見られなく、「咱們」と「俺們」が主流となっている。当時南方系の「我們」はまだ北方官話に流入していないことが推測できる。

第二、明代に入ってから、「我們」は文語として北方漢語地域に流入した。たとえば、『金瓶梅詞話』では、わずかながら「我們」を使い始めた。この「我們」の転入経路は詳しく探知できていない。直接南方官話から流入したのか、或いは「我們」を受容した北方官話から流入したのかという疑問が一応残される。

『翻訳老乞大』では、「我們」の用例が4回見られ、やはり少ない。この4例の中で、3例は『老乞大』の「俺」から書き直したものである。例を見てみよう。

(48) 老乞大: 儘教, 俺喫了時, 與他將些去。

翻訳老乞大: 我們喫了時, 與他將些去。

(49) 老乞大: 那般者, 俺自做喫, 鍋竈椀櫟都有麼?

翻訳老乞大: 我們自做喫時, 鍋竈椀櫟都有麼?

(50) 老乞大：哥哥，俺每廻去也。

翻訳老乞大：大哥，我們廻去也。

『老乞大』における他の「俺」は、『翻訳老乞大』では「我」に書き直されてしまっている。この事実から考えるならば、「我們」はまだ普及していなかったと言えよう。また、一部の「俺」は複数を表すため、「我」に書き直されるのは適当でないであろう。このことからするならば、崔世珍はやはり漢語に対する理解が不足している可能性があるであろう。このようなところは、『老乞大新釈』と『重刊老乞大』では、「我們」に書き直され、訂正されている。『老乞大新釈』では「我們」の用例は48回で、『重刊老乞大』では46回である。

『翻訳老乞大』はなぜ「我們」を使ったり、なぜこのような誤りを犯したりしたのであるか。『老乞大』の改訂作業を行った人は明の使者であり、その使者が正に南方の人であるから、南方方言の混入する可能性が高いと考えられている。これに関しては、以下の『朝鮮王朝實録・成宗大王實録』卷158、成宗14年(明成化19年)9月条を参照する(鄭光1995、張全真2003、増野仁 2007)。

上語副使曰：“我國至誠事大，但語音不同。必學得字音正，然後語音亦正。幸今頭目官真是好秀才，予欲令質問字韻，請大人使秀才教訓。”副使曰：“我雖不言，彼必盡心矣。”命召葛貴，賜酒，謂曰：“汝盡心教誨，予深嘉悅。”貴啟曰：“俺南方人，字韻不正，恐有差誤。”

「咱們」の使用状況には変化はないが、『老乞大新釈』と『重刊老乞大』では、一部の「咱們」は「我們」となっている。

第三、「我們」は文語として北方漢語地域に入ったあと、正式な言葉として使われている。比較的規範的な漢語で書かれる作品では、この「我們」がよく用いられている。たとえば、『醒世姻縁伝』は中原官話に属するが、多くの「我們」が用いられている。しかし、作者は山東省の人であるため、やはり不注意で「俺們」を使っている。ちなみに、『醒世姻縁伝』の言語はかなり規範的である。

第四、『醒世姻縁伝』と同時代である『聊齋俚曲』では、「我們」の用例はゼロで、

「咱們」は292回、「俺們」は307回である。『聊齋俚曲』は蒲松齡によって書かれたもので、極く自然な言語で流れている。このことからするならば、当時中原官話では、「我們」は依然として普及していなかったものと思われる。

第五、清中葉に入ったあと、「我們」は文学作品で定着してきた。たとえば、『紅樓夢』、『兒女英雄伝』では、大量の「我們」が使われ、結局、「俺們」の領地はすべて奪われてしまった。『紅樓夢』、『兒女英雄伝』で見られる各2例の「俺們」は、前文に触れたように作者の文学的手段として使われるものである。田舎の人が現れると、作者は「俺們」を用いている。例を見てみよう。

(51) 劉姥姥道：“去了金的，又是銀的，到底不及俺們那個伏手。”（『紅樓夢』）

(52) 劉姥姥道：“這個菜裏若有毒，**俺們**那菜都成了砒霜了。那怕毒死了也要吃盡了。”（『紅樓夢』）

(53) 老婆兒道：“好還怕不好喂！只是**俺們**拿啥賠送呢？”（『兒女英雄伝』）

(54) 这親家太太可不是那兩日的親家太太了，也穿上裙子了，好容易女兒勸着把那个冠子也摘了。見了安老爷，拜了兩拜，口里說：“好哇，親家！**俺們**在這裡可糟擾了！”（『兒女英雄伝』）

「俺們」を使っている人は、やはり前文に触れた「俺」が使われている「劉姥姥」と「張太太」である。特に、例(54)では、「親家太太」(張太太)の見掛けは変わってはいるが、話は引き続き田舎者の口調である。

現在、北方官話では、「我們」が定着しており、「俺們」は姿を消してしまい、「咱們」は引き続き使われる。逆に、中原官話に属する蘭陵方言では、「我們」は受容されていない状態であり、「咱們」と「俺們」は引き続き使用され、それは「咱」、「俺」となっている。

上述した内容をまとめると、「我們」と「咱們」、「俺們」の変遷について、以下の図3を作成する。

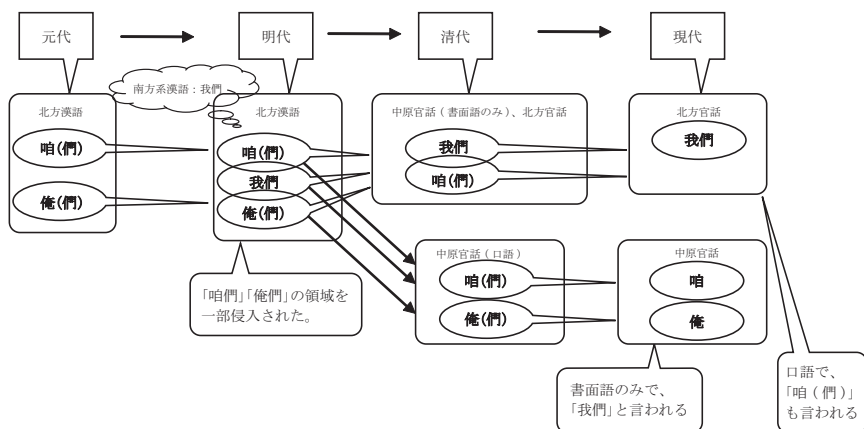


図3「我(們)」と「咱(們)」、「俺(們)」の変遷図

3 第二人称複数形および変遷

3.1 「你們」・「你每」

第二人称複数形は「你們」を指す。前文に触れてのように、漢語史において、「你𠵼」、「你𠵼𠵼」、「你門」という表記も見られる。例を見てみよう。

(55) 你𠵼只恃著大江，我朝馬蹄所至，天上天上去，海裡海裡去。(『黑韃事略』26)

(56) 不因你𠵼番人在此，如何我𠵼四千里路來。(『齊東野語』5.9)

(57) 是州主不降，還是你門不降？(『范仲熊北記』，『三朝北盟會編』61)

「你們」は本来第二人称複数形であるが、単数を指す用例も出てきたことがある。たとえば、

(58) 亞爹孩兒全沒，老來惟憑著你門一個。(『張協狀元』)

『金瓶梅詞話』では、「你們」と「你每」という2つの表記が見られる。「你們」の用例は69回で、「你每」の用例は159回が見られる。1例の「你每」は誤った例であるため、ここでは統計に加えない。この例は以下のようなものである。

*祝日念道：“應二哥說的是。你每風月雨不阻，出二十銀子包錢包着他。你不

去，落得他自在。”(020/13b/09～10)

この例では、「風」と「月」が転倒している。訂正すると、以下のセンテンスになる。

祝日念道：“應二哥說的是。**你每**風月雨不阻，出二十銀子包錢包着他。你不去，落得他自在。”(020/13b/09～10)

「你們」と「你每」を合わせると、計228回の用例が出てきた。「你們」と「你每」は主語および目的語とすることが主流である。228回のうち、修飾語として使われる「你們」は4回しか見られない。224回は主語および目的語として使われている。

発話者は聞き手に対して「你們」と「你每」使うとき、2種類の状況がある。1つは複数の聞き手に対して使うものである。たとえば、例(59)では、「你們」は「呉月娘、孟玉楼、李瓶兒」などを指している。例(65)では、「你每」は「西門慶、呉銀兒」を指している。例を見てみよう。

(59) 只見潘金蓮和大姐從後邊出來，笑道：“我說後邊不見，原來**你們**都往前頭來了。”(046/18a/04～05)

(60) 伯爵道：“都是小油嘴哄我，**你們**倒做實了我的酒了。怎的擺佈？”(054/07b/06～07)

(61) 這應伯爵用酒碟安三個鍾兒，說：“我兒，**你們**在我手裡吃兩鍾。不吃，望身上只一潑。”(068/09b/10～11)

(62) 伯爵不好接一頭，兩手各接了一碗，就吃完了。連忙吃了些小菜，一時面都通紅了，叫道：“我被**你們**弄了！酒便慢慢吃還好，怎的灌的悶不轉的。”(054/08a/11～03)

(63) 月娘道：“賊臭肉！還敢嚷的是些甚麼！**你每**管着那一門兒？把壺不見了。”(031/09a/04～05)

(64) 金蓮道：“李大姐，**你每**自去。我摘了頭，你不知我心里不耐煩。我如今睡也！比不的你每心寬閑散。”(038/11b/06～08)

(65) 伯爵道：“**你每**說的只情話，把俺每這裡只顧早着，不說來遞鍾酒，也唱

個兒與俺聽。俺每起身去罷。”(068/09a/11 ~ 09b/01)

もう1つは、聞き手が1人である場合、発話者が「你們」と「你每」を使って、「你」および「你」と関係がある人を指す。たとえば、例(66)では、聞き手は「金蓮」1人で、「你每」は「你」と死んだ李瓶兒に服を着せていた人たちを指さしている。例を見てみよう。

(66) 西門慶道：“沒的胡說，有甚心上人心下人？”金蓮道：“李瓶兒是心上的，奶子是心下的，俺每都是心外的人，不上數。”西門慶道：“恁小淫婦兒，又六說白道起來。”因問：“我和你說正話，前日李大姐裝擲，你每替他穿了甚麼衣服在身底下來？”(067/17b/10 ~ 18a/03)

「你們」と「你每」を使用して、1人の人物だけを指すこともある。この場合、聞き手は1人であるべきである。発話者は「你們」と「你每」を使って、表面で「アナタ」および「アナタ」とある関係を持つほかの人を指しているが、「アナタ」をはっきり指摘せずに、実際に「アナタ」だけを指さしている。このことは発話者と聞き手の心理よりはっきり分かるが、傍観者はやはり複数として考える。このように言うならば、「你們」と「你每」が「アナタ」を指すという意味を獲得しているわけではなく、発話者のレトリックとして使われているのである。たとえば、例(67)は西門慶と故李瓶兒の小間使いの如意兒の会話である。西門慶は如意兒と性的関係をもったあと、また同様の関係をもちたいと思っていて、この話をするのである。この「你每」は表面で「如意兒、綉春、迎春」を指しているが、実際に「如意兒」1人を指している。特に、最後に西門慶は「你」と言ったのである。例(68)では、実際には「你每」は「金蓮」を指している。例を見てみる。

(67) 又許下老婆：“你每晚夕等我來這房裡睡。”如意道：“爹真個來？休哄俺每着！”西門慶道：“誰哄你來？”(074/03a/10 ~ 03b/01)

(68) 潘金蓮就打聽得知西門慶在李瓶兒房內和奶子老婆睡了一夜，走到後邊對月娘說。……月娘道：“你每只要裁派教我說他要了死了的媳婦子，你每背地多做好人兒，只把我合在缸底下一般。我如今又做傻子哩！你每

説只顧和他説，我是不管你這閑帳。”(067/15a/03～10)

3.2 「你們」・「你每」に対しての歴史的考察

漢語史において、「你們」は縮約して、「您、恁」となることがある。「您」は宋代に出現し、「恁」は元代に出現したものである。「您、恁」は口語の様子を反映していると見なすことができる。例を見てみよう。

(69) 您兩個也不是平善底。(『劉知遠諸宮調』)

(70) 父母每也，恁都好托生去咱。(『殺狗勸夫』)

『金瓶梅詞話』の中で、このような縮約された「您、恁」は見られない。「恁」という文字は用いられてはいるが、副詞としての用法である。

北方漢語では、明に入ったあと、この「您、恁」は引き続き使われてはいないようである。ここで、「你們」「你每」を含むと「您」「恁」に関する問題について、『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』、『老乞大』、『翻訳老乞大』、『金瓶梅詞話』、『醒世姻縁伝』、『聊齋俚曲』、『老乞大新釈』(1761)、『重刊老乞大』(1795)および『紅樓夢』、『兒女英雄伝』のような11種を用い、歴史的考察を行ってみる。「您、恁」のある用例は単数を表すが、ここでは一応区別せず、一括して統計処理をした。結果は表3のとおりである。

表3 「你們」と「您」

作品名	所属	「你們」	「您」	備考
『元刊雜劇三十種』	北方官話	6	111	3例の「您每」を含む
『關漢卿戲曲集』	北方官話	2	48	
『老乞大』	北方官話		121	「恁」
『翻訳老乞大』	北方官話			すべて「你」となる
『金瓶梅詞話』	中原官話	228		
『醒世姻縁伝』	中原官話	213		
『聊齋俚曲』	中原官話	1	128	
『老乞大新釈』	北方官話	31		
『重刊老乞大』	北方官話	28		

『紅樓夢』	北方官話	1009	4	詞曲における「你們」を含まない
『兒女英雄伝』	北方官話	429		

この表における統計に基づき、図4を作成する。

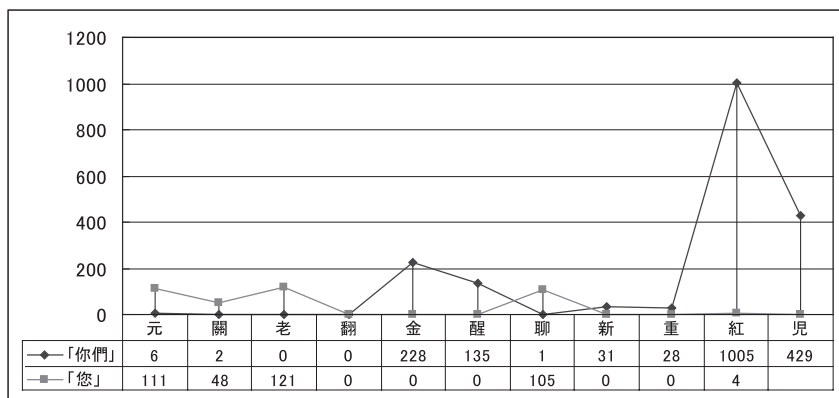


図4 「你們」、「您」の分布図

表3と図4から見れば、以下のような考え方ができるであろう。

第一、元代において、縮約された「您」はかなり多く、「你們」はかなり少ない。『元刊雜劇三十種』、『關漢卿戲曲集』では、合計で、「你們」は8回しか用いられない。元代では、「您」が主流であったと見なすことができる。

第二、明代では、「您」は継承されていない。『翻譯老乞大』では、『老乞大』における「恁」はすべて「你」に書き直されてしまった。これは前文に指摘した「俺」の問題と同様である。「恁」が複数を表す場合、「你」で書き直すことは不適當であるのであろうか。例を見てみよう。

(71) 老乞大: 恁既是姑舅兩姨弟兄，怎麼沿路穢語不迴避？

翻譯老乞大: 你既是姑舅兩姨弟兄，怎麼沿路穢語不迴避？

『金瓶梅詞話』では、「您、恁」が1回も見られない。日常言語では、この「您、恁」が消失してしまったのかどうか。これは難問として残されると思う。『醒世姻縁伝』では、「你們」は213回使われ、「您」の用例はゼロである。この結果

については、理解できないとは言えない。『醒世姻縁伝』の言語はかなり規範的な言葉であるからである。

清代で、『聊齋俚曲』では、「您、恁」は105回見られ、かなり大量に使われている。『聊齋俚曲』は自然な口語を反映していると見られし、やはり「您、恁」は中原官話では活発に使用されている。しかし、北方漢語に属する北方官話では、「您、恁」はほとんど見えない。『老乞大新釈』、『重刊老乞大』では、『老乞大』における「恁」の一部は『翻訳老乞大』にしたがって、そのまま「你」が引き続けて使われている。一部は「你們」で書き直されている。このことから考えるならば、改編する際、改編者たちは完全に『翻訳老乞大』を参照したのではなく、『老乞大』、『翻訳老乞大』をも参考にしている可能性が高い。「你們」で改編したところは当然問題ないが、複数を表す場合にそのまま「你」を使ってしまったことは不適当になるだろう。以下「你們」と「你」で改編した用例をそれぞれ挙げてみる。

「你們」

(72) 老乞大：恁外頭更有伴當麼？

翻訳老乞大：你外頭還有火伴麼？

老乞大新釈：你們外頭還有火伴麼？

重刊老乞大：你們外頭還有火伴麼？

「你」

(73) 老乞大：客人每，恁打火那不打火？

翻訳老乞大：客人們，你打火那不打火？

老乞大新釈：客人們，你打中火啊，不打下火啊？

重刊老乞大：客人們，你打中火啊，不打下火啊？

老乞大：俺不打火喝風那甚麼？

翻訳老乞大：我不打火喝風那？

老乞大新釈：我不打下火喝風麼？

重刊老乞大：我不打下火喝風麼？

老乞大：你疾快做著五箇人の飯者。

翻訳老乞大：你疾快做着五箇人の飯着。

老乞大新釈：這麼你快作起五箇人の飯來。

重刊老乞大：這麼你快作五箇人の飯來。

老乞大：恁喫甚麼飯？

翻訳老乞大：你喫甚麼飯？

老乞大新釈：你吃甚麼飯？

重刊老乞大：你喫甚麼飯？

老乞大：俺五箇人，打著三斤麵的餅者，俺自買下飯去。

翻訳老乞大：我五箇人，打着三斤麵的餅着，我自買下飯去。

老乞大新釈：我五箇人，打三斤麵的饅饅，我自去買下飯菜。

重刊老乞大：我五箇人，打三斤麵的饅饅，我自去買下飯菜。

『紅樓夢』では、「你們」の用例は1009回で、「您」は4回である。この4回はやはり詞曲で用いられたものである。『兒女英雄伝』では、第二人称複数形はすべて「你們」で表し、「您」の用例はゼロである。

現在の北方官話(北京方言)の中でも、第二人称複数形は「你們」で表す。「您、恁」はなくなった。現在使われている「您」は縮約された「您、恁」とは関係ないと言える。

現在の蘭陵方言では、「你們」は「您」になってしまった。「您」の発音は[n̩ən]である、「你們」とは絶対に言わない。「你們」と言えば、気取った話しぶりとなり、きっとあざ笑われることとなろう。2つの「您」の用例を見てみる。

(74) 您趕多咱來也，說了都快半年了！

(75) 我又不吃您的，給我看看怎的？

上述した内容をまとめ、「你們」の変遷について、以下の図5を作成する。疑問のある場合、「？」をつける。

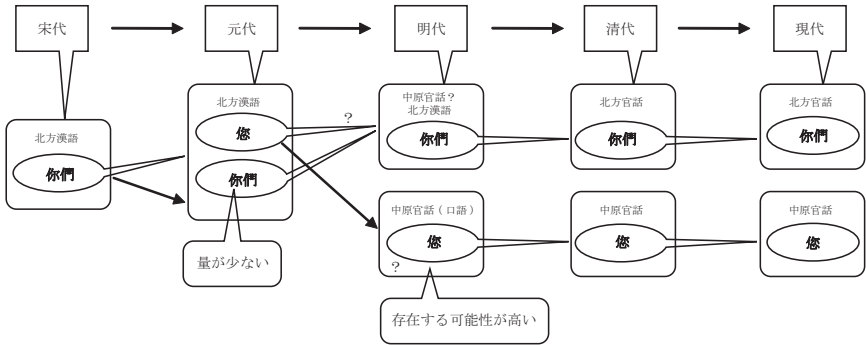


図5 「你們」の変遷図

4 第三人称複数形および変遷

第三人称複数形は「他們」を指す。「他們」は発話者と聞き手の以外の第三者らを表す。発話者と聞き手とが会話をするに先立って、この第三者らは知られていなければならない。

4.1 「他們」の使用法

『金瓶梅詞話』では、第三者複数形は「他們」、「他每」を使って表記する。「他們」の用例は24回で、「他每」は48回である。「他們」、「他每」を使って第三者らを指しているケースは、3種類に分けられる。

まず、前文に触れた第三者らを指す。たとえば、例(76)では、西門慶は前に「文嫂兒」と「薛嫂兒」に触れて、婆子はそれに沿って、「他們」を使って「文嫂兒」と「薛嫂兒」を指している。例(77)では、「他每」を使って、「秋菊」、「春梅」を指している。

(76) 婆子哈哈笑道：“老身哄大官人耍子。俺這媒人們都是狗娘養下來的。**他們**說親時又沒我，做成的熟飯兒，怎肯搭上老身一分。常言道：當行厭當行。”(003/09b/04～06)

(77) 惠蓮道：“秋菊掃地哩，春梅姐在那裡梳頭哩！”金蓮道：“你別要管

他，丟着罷。亦發等他每來拾掇，歪蹄潑腳的，沒的展污了嫂子的手。”
(023/09b/04～06)

次に、発話者と聞き手にとって、前もっては触れられていないが、既知である第三者らを指さしている場合がある。その第三者に対して、発話者と聞き手は暗黙に了解している。たとえば、例(78)では、西門慶は金蓮に対して、「他每」を使った。前もっては触れてはいないが、この「他每」が「應伯爵」などの人たちであることを二人はよく分かっている。

(78) 西門慶道：“你們都在花家吃酒，我和他每燈市裡走了回來，同往裡邊吃酒過一夜。今日小廝接去，我才來家。”(016/04b/04～06)

最後に、直接に人を指す名詞のあとに「他們」を付けて、名詞が表す第三者らを指している。よく使われる名詞は人名、呼称詞のようなものである。この場合、1人を表す名詞或いは二人以上の人を表す名詞を出して「他們」をつけることができる。例を見てみる。

(79) 金蓮道：“大姐姐他每多有衣裳穿，我老道只自知數的那幾件子，沒件好當眼的。”(040/08a/07～09)

(80) 也有玉簪他每，你推我、我打你，頑成一塊，對着王八雌牙露嘴的，狂的有些褶兒也，怎的？(022/07a/03～05)

(81) 西門慶道：“我不去了。消一回我往前邊看着姐夫寫了帖兒發帖兒去。十五日請周菊軒、荊南崗、何大人他每眾官客吃酒。”(079/11a/04～05)

『金瓶梅詞話』では、「他們」が使用される用例もある。「他們」を使って、第三者らを指さずに、「他們」における第三者を特定しないケースである。たとえば、例(82)では、呉月娘が言った「他們」は李嬌兒、孟玉樓、潘金蓮、李瓶兒、孫雪娥などの任意の1人を指している。

(82) 月娘道：“他爹吃酒來家，到我屋里。纔得脫衣裳，我說：‘你往他每屋里去罷！我心裡不自在。他纔往你這邊來了。’”(033/09b/07～09)

「他們」と「他每」とは、あわせると72回見られる。そのうち71回は会話文で

使われ、1回のみ地の文で使われる。語り手は聴衆や聞き手を想定して、この「他毎」を使って、投獄されている「車淡」などの父を指している。例を見てみよう。

(83) 那伯爵得了這消息，急急走去回**他毎**話去了。(035/02a/02 ~ 03)

現在の蘭陵方言では、「他們」は使われているが、使用頻度はかなり低い。実際に、『金瓶梅詞話』でも、「他們」の用例数かなり少ない。蘭陵方言における「他們」の発音は[ta²¹⁴⁻⁴¹²·mən]で、軽声の前に置く「他」は陰平から去声に変化してくる。この発音は蘭陵方言の音韻体系に合わない。蘭陵方言における「他」の発音は[ta⁴⁴]で、陰平ではなく、上声に属する。蘭陵方言の連読音変規則によると、「他們」は[ta⁴⁴⁻²¹⁴·mən]にするべきであるが、このようには発音しない。この視点からするならば、蘭陵方言における「他們」は北方官話から伝わってきたと推測することができる。北方官話における「他們」の中の「他」はまさに陰平にする。蘭陵方言はこの「他們」を借り、「他」を陰平として、軽声の前の位置にあるゆえ去声に変調したものであろう。蘭陵方言は自分自身で[ta214-412·m<n]という形を生成することはありえない。したがって、蘭陵方言の「他們」は北方官話からの外来語だと見なすことができるのである。

4.2 「他們」の分布

『金瓶梅詞話』では、「他們」の用例は72回で、「咱們」、「俺們」と比べると、やはり相当少ないようで、大体「我們」と同じレベルにある。第一、二、三人称代名詞複数形は体系としては存在するのであるが、数量からするならば、「他們」は使用回数が少なく、その意味ではバランスを欠くようである。現在の蘭陵方言における「他們」の状況は上記の通りであるが、ほかの作品における「他們」はどのような使用状況であろうか。ここで、『金瓶梅詞話』、『醒世姻縁伝』、『聊齋俚曲』、『紅樓夢』、『兒女英雄伝』における「他們」の使用回数を比べてみる。「他們」の使用状況は以下の表4の通りである。

表4「他們」の分布表

作品名	所属	「他們」	備考
『金瓶梅詞話』	中原官話	72	
『醒世姻縁伝』	中原官話	161	
『聊齋俚曲』	中原官話	3	
『紅樓夢』	北方官話	898	詞曲における「他們」を含まらない
『兒女英雄伝』	北方官話	250	

5 結論

すでに触れた第一人称複数形の「我們」、「咱們」、「俺們」、第二人称複数形「你們」を加えて、第一、二、三人称複数形の用例数量を合わせて、以下の表12を作成する。『聊齋俚曲』では、「您」が加わる。

表4「我們」、「你們」、「他們」、「咱們」、「俺們」の分布表

作品名	所属	「我們」	「你們」	「他們」	「咱們」	「俺們」
『金瓶梅詞話』	中原官話	51	228	72	378	388
『醒世姻縁伝』	中原官話	339	213	161	365	30
『聊齋俚曲』	中原官話	0	129	3	292	307
『紅樓夢』	北方官話	1226	1009	898	607	2
『兒女英雄伝』	北方官話	449	429	250	312	2

この表に基づき、以下の図6を作成する。

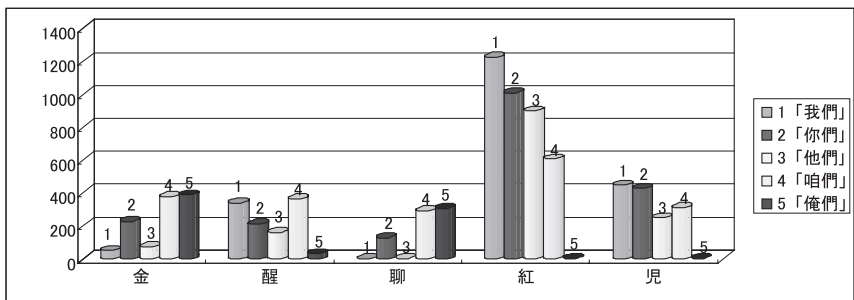


図6「我們」、「你們」、「他們」、「咱們」、「俺們」の分布図

表4と図6から見ると、『金瓶梅詞話』と『聊齋俚曲』では、人称代名詞複数形体系は第一、二人称に分けられ、第一人称複数形は「包括形」と「除外形」に分けられる。第三人称複数形としての「他們」も使いはじめられている。『醒世姻縁伝』、『紅樓夢』、『兒女英雄伝』では、人称代名詞複数形体系における第一、二、三人称複数形としての「我們」、「你們」、「他們」が鼎立する様相を呈することとなった。また、口語では、「咱們」は引き続き使われ続けるのである。

参考文献

- 呂叔湘 江藍生1985『近代漢語指代詞』, 呂叔湘 著, 江藍生 補, 学林書版社。
- 張全真2003「古本《老乞大》与諺解本《老乞大》《朴通事》語法比較研究」, 『對外漢語教學与研究』第1輯, 南京大学出版社。
- 鄭 光 1995「翻譯《老乞大》解題」, 国語史資料研究会編『訳註翻譯老乞大』, 太学社。
- 増野仁 2007「從《老乞大》看漢語第一人稱代詞的變遷」, 『對外漢語研究』, 第三期, 商務印書館。

本稿は、2007年度松山大学特別研究助成による成果である。